

大牟田市立大牟田特別支援学校

1 本校のESDの特徴

本校では、「すべての人が質の高い教育の恩恵を享受できるようにする」「持続可能な発展のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びに取り込まれるようにする」「環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすようにする」ことを重点目標とし、「交流及び共同学習」を核としたESDを推進している。

本校における「交流及び共同学習」は、近隣の天の原小学校、宮原中学校、有明工業高等専門学校との行事交流を中心に30年以上の歴史がある。また、子どもの居住地を校区とする市内各小中学校との交流も増え、居住地校交流も盛んである。地域交流では、地域の方々を招待する学習発表会や餅つき交流をはじめとして、サンアビ祭りや勝立地区公民館文化祭への児童生徒作品の出展など地域との交流を深めている。

さらに、平成24年度より、ユネスコスクール加盟校である新潟県見附市立見附特別支援学校との交流が始まり、お互いの学校紹介や学部紹介、作品交換などを行っている。平成30年10月現在、国内においてユネスコスクールに加盟している特別支援学校は、本校と見附特別支援学校を含め12校である。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

	小学部	中学部	高等部	訪問教育
学校間交流	○七夕交流(6月) ○なかよし交流(10月) ○合同運動会(11月) ○みんなで遊ぼう交流(12月)	○七夕飾り交流(6月) ○七夕交流(6月) ○合同運動会(11月) ○わくわく交流(10月) ○クリスマス会交流(12月)	○高専音楽交流(9月) ○合同運動会(11月) ○高専作業交流(2月)	○合同運動会(11月)
○新潟県見附市立見附特別支援学校との交流(1学期:小学部・2学期:中学部・3学期:高等部)				
居住地校交流	○子どもの居住地を校区とする市内各小学校	○子どもの居住地を校区とする市内各中学校		
地域交流	○学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展(11月) ○合同作品展(2月)	○学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展(11月) ○合同作品展(2月)	○やぶつばき交流(6月) ○学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展(11月) ○合同作品展(2月) ○ゆめタウン販売(2月)	○学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○勝立地区文化祭出展(11月) ○合同作品展(2月)

3 特徴的な活動事例

＜「居住地校交流」－子どもが居住する校区の学校と一緒に学習を行う－＞



特別支援学校の子どもたちにとって、自分が住んでいる地域で人間関係を広げ、豊かに暮らしていくために、地域の同年代の子どもたちと活動を共にし、交流を深めることはとても大切です。子どもたちが、将来、居住地で自立・社会参加することにつながります。写真は、手鎌小学校6年生との交流です。外国語活動を教科書を使って学習している様子です。

＜「学校間交流（クリスマス会交流）」－中学部生徒と宮原中生徒がクリスマス会で交流する－＞



生徒が協力し合って、一緒に飾りつけや歌・ゲームを行う中で、集団で活動することの楽しさを味わい、相互のふれあいを深めることをねらいとして行われます。

三校(天の原小・宮原中・大特支)合同交流及び共同学習推進委員会を組織して、計画的に交流を実施しています。

＜「地域交流（ゆめタウン販売）」－作業学習で作成したものを商業施設地域（ゆめタウン大牟田店）で地域の方々へ販売する－＞



高等部の各作業班が育てたり、作成したりした新鮮な野菜、木工製品、焼き物のお皿、デコパージュ、布製品などを販売しています。販売当日はお揃いの法被を着て、呼び込み・販売・ビラ配りを行い、地域の方々との交流を深めています。

お客さんから「がんばってね。」と声をかけられ、うれしそうな笑顔をみせていました。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・学校間交流や居住地校交流，地域交流を通して，つながりを大切にしようとする態度や人の気持ちや考え方を大切にしたり，自分の気持ち・考えを伝えたりする力が身に付いてきた。その姿は，学校生活の様々な場面で見られるようになってきた。

○課題

- ・近接の小中学校や市内の小中学校，有明工業高等専門学校，国内の新潟県見附市立見附特別支援学校との交流を継続して行うことができているが，海外の学校との交流も新たに挑戦していきたい。